



## 平成20年3月期 第3四半期財務・業績の概況

平成20年1月31日

上場会社名 ユニ・チャーム株式会社  
 コード番号 8113  
 代表者 代表取締役 社長執行役員 高原 豪久  
 問合せ先責任者 執行役員 経理部長 岩田 淳  
 上場取引所 東証第一部  
 URL <http://www.unicharm.co.jp/>  
 TEL (03)3451-5111

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成20年3月期第3四半期の連結業績 (平成19年4月1日～平成19年12月31日)

#### (1) 連結経営成績

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20年3月期第3四半期	251,011	11.4	25,602	14.0	25,265	12.8	12,865	13.8
19年3月期第3四半期	225,422	12.2	22,452	6.0	22,407	2.6	11,302	△5.0
19年3月期	301,880	—	29,929	—	30,071	—	15,058	—

	1株当たり四半期 (当期)純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益
	円 銭	円 銭
20年3月期第3四半期	199 70	199 61
19年3月期第3四半期	174 01	173 87
19年3月期	232 31	232 17

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
20年3月期第3四半期	283,053	185,883	59.7	2,622 20
19年3月期第3四半期	258,618	170,983	60.2	2,415 95
19年3月期	268,763	177,049	60.0	2,501 60

#### (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
20年3月期第3四半期	30,994	△11,094	△5,446	79,949
19年3月期第3四半期	14,483	△13,168	△9,575	59,698
19年3月期	28,357	△20,328	△10,795	65,449

2. 平成20年3月期の連結業績予想(平成19年4月1日～平成20年3月31日) 【参考】

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	328,000	8.7	33,000	10.3	33,000	9.7	15,500	2.9	240 59

3. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
 (2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 無  
 (3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 有

(注) 詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想には、本資料の発表現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。実際の業績は、競合状況・為替の変動等にかかわるリスクや不確定要因により記載の予想数値と大幅に異なる可能性があります。

## 【定性的情報・財務諸表等】

## 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期(平成19年4月1日から平成19年12月31日まで)の経営成績の進捗状況は、国内事業では、主力事業における新需要創造型製品や高付加価値製品を発売し、収益の拡大に取り組んでまいりました。一方、海外事業では、主要な地域においてベビー用紙オムツ、生理用ナプキンの売上高を順調に拡大しました。アジア地域では中国・インドネシアなどの成長により収益を改善しました。ヨーロッパにおける大人用失禁製品及びベビー用紙オムツ、中東・北アフリカ地域におけるベビー用紙オムツも引続き売上高を拡大しました。

この結果、当四半期の売上高は251,011百万円(前年同期比11.4%増)となりました。利益は、前期に続き原材料価格の上昇などの影響を受けましたが、営業利益は25,602百万円(前年同期比14.0%増)、経常利益は25,265百万円(前年同期比12.8%増)、四半期純利益は12,865百万円(前年同期比13.8%増)となりました。

事業の種類別セグメントの概況は次のとおりであります。

## ①パーソナルケア

## 【ベビーケア事業】

国内市場の成熟化が進む中、高機能・高付加価値の紙オムツを投入することによって、市場の活性化と収益改善に努めて参りました。抗菌ピュアシートを採用した『ムーニーマン さららマジック』の育成強化に取り組みながら、『スーパーBig』を投入するなど新たな使用機会の創出を図りました。また、『マミーポコパンツ』のデザイン・機能を強化すると共に、テープタイプの『マミーポコ』の商品価値向上を図るなど、継続的な新製品投入と積極的なマーケティング活動を展開しました。

一方、海外では、アジアを中心にテープタイプの『Mamy Poko』とパンツタイプの『Mamy Poko Pants』のブランド浸透を中心としたマーケティング活動を展開してまいりました。中国・タイ・インドネシアなど主要国で順調に売上を拡大し収益改善を図りました。また、インドネシアでは、ベビー用紙オムツの普及拡大を図るため、初めてのエコノミーパンツタイプ紙オムツ『Mamy Poko Pants Standar』を12月に発売しました。さらに、中東・北アフリカ市場では、需要の拡大に合わせて製品供給能力を拡大し、プレミアムブランド『Moony』とエコノミーブランド『Babyjoy』の売上を拡大しました。

## 【フェミニンケア事業】

国内では、生理用品カテゴリーで唯一の総合メーカーとして「女性の快適を科学して自由を創造する」という事業理念のもと、安心と快適を実現する製品の開発・改良に注力し、高付加価値製品を提供することで市場の活性化を図ってまいりました。

生理用ナプキンでは、従来の不織布やメッシュタイプとは異なる新開発の「FCLシート」を採用した、『ソフィ はだおもい』を新発売しました。また、『ソフィ ボディフィットふわピタスリム』や『ソフィ 超熟睡ガード』など高付加価値成長セグメントの育成とシェアの拡大を図りました。さらに、『センターイン』ブランドでは全面的なリニューアルを実施し、『コンパクト』シリーズを中心に広告投入によるブランドの育成強化に取り組みました。

海外では、アジアの主要な国と地域における高付加価値の夜用タイプナプキンを中心に積極的な販売・マーケティング活動を行い、市場拡大の加速化と『Sofy』『Charm』ブランドの市場浸透を図りました。また、ベトナムでは新設した工場でのナプキンの生産を開始し、ベトナム生理用品市場に本格的な参入を果たしました。さらに、サウジアラビアでも現地生産を開始すると共に、広告展開による『Sofy』ブランドの浸透強化に努めました。韓国では、TVコマーシャルの積極的な展開によって売上を大きく伸ばしシェアを拡大しました。

## 【ヘルスケア事業】

国内では、「生命(いのち)の歓びを追求する」を事業理念に、心と身体の寝たきりゼロを目指して、『ライフフリー』ブランドの開発・改良に注力してまいりました。

団塊の世代の高齢化と共にますます軽度失禁製品市場の拡大が予測される中、健康な高齢者向けの尿モレ対処品『ライフフリー 吸水下着スリムウェア』、男性用尿もれ専用パッド『ライフフリー メンズガードスリム』を発売し、「吸水下着」カテゴリーの創造に取り組みました。また、『ライフフリー長時間あんしん尿取りパッド』の発売により、在宅でも施設介護と同様の排泄ケアを実現可能とする独自の提案を推進し市場拡大を推進しました。マスクの装用によるカゼ対策を提案し、

『ユニ・チャーム 超立体マスク』の販売強化に努めました。業務用分野においては、独自に構築した排泄ケアモデルの提案によって新規顧客の獲得と既存顧客の深耕に注力してまいりました。

海外においては、台湾とタイにおいて『Lifree』ブランドの展開を加速し、着実に市場における地位を高めてまいりました。また、ヨーロッパを中心としたパンツタイプ紙オムツも順調に売上を伸ばしました。

#### 【クリーン&フレッシュ事業】

お客様へ清潔・安心・新鮮を提供するクリーン&フレッシュ事業では、『ウェーブ』『シルコットウェット』『シルコット』の3つのブランドに集中して販売を強化しました。

新たなお掃除習慣を提案するシートクリーナー『ウェーブ』では、『ウェーブ ハンディワイパー のびるタイプ』を新たにラインアップに加え、新規使用者の獲得とリピートの拡大を図りました。

また、『シルコットウェットティッシュ』では、「安心除菌」シリーズに緑茶由来の除菌成分を配合し機能強化を図りました。また、衛生意識の高まりに対応するため、高濃度のアルコールを配合して強力に除菌できる『シルコットウェットティッシュ アルコール除菌ウェットタオル』を新発売しました。

海外では、当社が保有するシートクリーナー『ウェーブ』のシート技術をザ・プロクター・アンド・ギャンブル社にライセンス供与しています。この技術を用いた「スイッフアードスターズ(Swiffer Dusters)」は、北米ならびにヨーロッパ地域において販売され、当社のロイヤリティ収入に寄与しました。

### ②ペットケア

社会の少子化・高齢化が一段と進行していく中、ペットに対する関心は益々増大し、ペットケア市場に対する期待は非常に大きなものとなっております。

「健康と清潔でペットの暮らし快適に」を事業理念に、ペットフード、ペットトイレタリーの2つの分野に特化して、ペットの健康と清潔な住環境を提供する事業を展開してまいりました。

ペットフード部門では、犬用フードにおきまして、半生タイプの製品である『ゲインズパックスン』シリーズに、低脂肪でありながら、おいしい「鶏ささみ」を使用した『ゲインズパックスン 鶏ささみ』の発売、猫用フードにおきまして、ウェットタイプの製品として、従来の缶タイプに加え、やわらかなゼリーと、たっぷりの身とうまみを特長とするパウチタイプの『銀のスプーン パウチ』の発売、また副食カテゴリーにおいて、『銀のさら きょうのごほうび』シリーズに、『銀のさら きょうのごほうび 芳潤細切りささみ』等の発売など、差別化されたカテゴリーを中心に強化・販売促進を図りました。

ペットトイレタリー部門では、犬排泄処理用シートにおいて、当社従来品のシートの3倍のスピードでオシッコを瞬時に吸収する高い吸収力・速乾力をもった画期的な製品である『ドライペットシート ZEROワン』の発売など、増え続けるペットの室内飼育に対応した製品を中心に強化・販売促進を図りました。

### ③その他

その他部門では、スーパーマーケットなどを顧客とする食品包材事業において、不織布及び吸収体技術を活かしたトレイマット『フレッシュマスター』の販売に注力しました。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

総資産は前連結会計年度末に比べ14,289百万円増加して、283,053百万円となりました。また、純資産は、8,834百万円増加して185,883百万円となりました。自己資本比率は、59.7%と高い水準を維持しており、株主の皆様への配当及び新たな事業展開に向けた潤沢な資金を確保しております。

(連結キャッシュ・フロー)

当四半期における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ14,499百万円増加して、79,949百万円となりました。

### ①営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益25,216百万円、減価償却費10,875百万円、法人税等の支払8,220百万円等により30,994百万円の増加となりました。

### ②投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得13,172百万円等により、11,094百万円の減少となりました。

### ③財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の純減少額1,532百万円、配当金の支払2,899百万円等により、5,446百万円の減少となりました。

## 3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成20年3月期中間決算発表時(平成19年10月31日公表)と変更ありません。

## 4. その他

### (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

### (2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用

該当事項はありません。

### (3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更

(固定資産の減価償却の方法)

当四半期から法人税法の改正に伴い、平成19年4月1日以降取得の固定資産については、改正法人税法に規定する償却方法により、減価償却費を計上しております。これによる損益への影響は軽微であります。

5. (要約) 四半期連結財務諸表

(1) (要約) 四半期連結貸借対照表

区分	前年同四半期末 (平成18年12月31日)		当四半期末 (平成19年12月31日)		(参考) 前期末 (平成19年3月31日)	
	金額 (百万円)	構成 比 (%)	金額 (百万円)	構成 比 (%)	金額 (百万円)	構成 比 (%)
(資産の部)						
I 流動資産	135,143	52.3	156,637	55.3	142,588	53.1
II 固定資産合計	123,475	47.7	126,416	44.7	126,175	46.9
1 有形固定資産	83,901	32.4	89,549	31.7	86,725	32.2
2 無形固定資産	4,155	1.6	3,747	1.3	4,027	1.5
3 投資その他の資産	35,418	13.7	33,118	11.7	35,422	13.2
資産合計	258,618	100.0	283,053	100.0	268,763	100.0
(負債の部)						
I 流動負債	73,134	28.3	81,752	28.9	75,370	28.0
II 固定負債	14,500	5.6	15,418	5.4	16,343	6.1
負債合計	87,634	33.9	97,170	34.3	91,714	34.1
(純資産の部)						
I 株主資本	148,266	57.3	161,968	57.2	152,010	56.6
II 評価・換算差額等	7,383	2.9	6,964	2.5	9,155	3.4
III 少数株主持分	15,333	5.9	16,950	6.0	15,883	5.9
純資産合計	170,983	66.1	185,883	65.7	177,049	65.9
負債純資産合計	258,618	100.0	283,053	100.0	268,763	100.0

(2) (要約) 四半期連結損益計算書

区分	前年同四半期 (自 平成18年4月1日 至 平成18年12月31日)		当四半期 (自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日)		(参考) 前期 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)	
	金額 (百万円)	百分比 (%)	金額 (百万円)	百分比 (%)	金額 (百万円)	百分比 (%)
I 売上高	225,422	100.0	251,011	100.0	301,880	100.0
II 売上原価	128,496	57.0	145,031	57.8	173,238	57.4
売上総利益	96,925	43.0	105,979	42.2	128,641	42.6
III 販売費及び一般管理費	74,472	33.0	80,376	32.0	98,711	32.7
営業利益	22,452	10.0	25,602	10.2	29,929	9.9
IV 営業外収益	1,322	0.6	1,363	0.6	1,897	0.7
V 営業外費用	1,367	0.7	1,700	0.7	1,755	0.6
経常利益	22,407	9.9	25,265	10.1	30,071	10.0
VI 特別利益	54	0.0	383	0.1	225	0.1
VII 特別損失	520	0.2	432	0.2	1,218	0.5
税金等調整前四半期 (当期)純利益	21,941	9.7	25,216	10.0	29,078	9.6
法人税等	9,068	4.0	10,179	4.0	11,952	4.0
少数株主利益	1,569	0.7	2,171	0.9	2,067	0.6
四半期(当期)純利益	11,302	5.0	12,865	5.1	15,058	5.0

(3) (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	前年同四半期 (自 平成18年4月1日 至 平成18年12月31日)	当四半期 (自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日)	(参考) 前期 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)
区分	金額 (百万円)	金額 (百万円)	金額 (百万円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	14,483	30,994	28,357
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△13,168	△11,094	△20,328
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△9,575	△5,446	△10,795
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	310	46	567
V 現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△7,950	14,499	△2,199
VI 現金及び現金同等物の期首残高	67,649	65,449	67,649
VII 現金及び現金同等物の期末残高	59,698	79,949	65,449